

## 報 告 書

2018年11月26日

望月 厚司様

議員名

下記のとおり、政務活動費による視察を実施したので、ご報告します。

1 日 時	2018年11月8日（木）9日（金）	
2 視 察 先	都 市 名 (1) 視 察 先 施 設 等	第13回マニフェスト大賞プレゼン研修大会 第13回マニフェスト大賞授賞式
	(2) 対 応 者	地方議員・議会事務局・市民活動団体・学校関係者
3 目 的	<p>自治体職員ローカル・マニフェスト推進地方議員連盟は、2018年7月11日の総会において、自治体職員、市民も正会員として加盟できるローカル・マニフェスト推進連盟と名称を変更する規約改正を行い、組織を昇華させました。連盟は2005年に発足以来、真の地方分権確立のため、二元代表制における地方議会、地方議員、地方自治体の活化、議会改革を進めてきました。その成果のひとつとして議会基本条例を制定した地方議会は全国の半数を超えるほどとなりました。成果の二つ目として、政治・選挙改革としてローカル・マニフェストの普及も努めてきました。「お願いから約束へ」に象徴されるように、曖昧な「公約」ではなく、議員として何をするか、そして、後日に評価可能な「約束」を選挙のさいに有権者と結ぶことで政治改革が進むと考えたためです。その成果のひとつとして、2019年4月から地方議会議員選挙の選挙期間中にマニフェストビラの配布が法改正で可能となり、有権者が政策で判断できる選挙へと変わることが期待されています。成果の三つ目として、日本最大の政策コンテスト、マニフェスト大賞を毎年開催し社会的に認知されたことにより、地方議会、地方自治体、市民の活動が地方から日本を変えていく大きな原動力となっています。他にも多数の活動成果はありますが、今以上に地方から日本を変えていくには、地方議会、議員が中心となる活動から議会事務局（議会局）との連携</p>	

	<p>をより高めていくことや、市民による力をより高め、それぞれが連携していくことがさらに地方から日本を変えていく大きな力になると確信しました。とのこれまでの評価を加え、来年春の統一地方選挙に向けて、マニフェストの重要性などをより強めて、志ある地方議員のみならず、多くの議会事務局(議会局)職員、自治体職員、市民の皆さん、地方から日本を変えていくために、ともに活動を進めましょう。これからの活動の呼びかけを共有すべく今年も参画する。</p>
<p>4 内 容</p>	<p><b>第 13 回マニフェスト大賞プレゼン研修大会</b>  <b>「地方自治における優れた取り組み」</b>  <b>善政競争を広げ、参加者の意見交換を進める</b>  今年も全国津々浦々、総勢 150 名の議員、自治体職員、市民など立場や年齢を超えた参加者が参加されました。  この研修会は、審査には影響しませんが、翌日のマニフェスト大賞授賞式の「前夜祭」として位置づけ、また目的として、マニフェスト大賞優秀賞受賞者の先進的な取り組みを学び、参加者同士の交流を深められた。</p> <p><b>株式会社メディアドゥホールディングス代表取締役社長 藤田恭嗣氏</b>  すべての人が笑顔になれる”奇跡の村”を創る」という出身地、徳島県旧木頭村での取り組みに関するマニフェストを掲げ、インバウンドを念頭においた地方での取り組みに関しての話や、「テクノロジーの進展がめまぐるしい昨今、5 年後、10 年後の都市はどうあるか、地方はどうなるのか、そこへのイメージーションを働かせ、生活が多様化していく中で議会や自治体がどのようにあるべきかを考えていただきたいと述べた。</p> <p><b>持ち時間3分で、部門ごとに、伝え方(プレゼンテーション)に焦点を当てた審査が行われた。結果発表</b></p> <p><b>1位 岡山県新見高校 『新見氏の未来を自分たちの手で創る～主権者教育の実践・高校生の陳情をツールとした地域活性化～』</b>  <b>2位 取手市議会・議会事務局 『女性の社会参加向上提言と対話重視の議会』 議員と事務局一体の取り組み</b> <b>3</b>  <b>位 川西市議会会派 明日のかわにし 『マイナスの会派予算提案～あれもこれもの要望からあれとこれの提案へ～』</b>  講評の後、それぞれのチームと意見交換ができた。  何時もにも増して、ビジュアル的なプレゼンに対する好評の声が多かった。明日の可点に繋がるかどうか?いずれも、内容的には質の向上がなされていると、審査員の講評。明日の本審査に影響するかどうか、面白い結果だった。</p> <p><b>第 13 回マニフェスト大賞 授賞式</b>  マニフェスト大賞実行委員会のメンバーとして今年も、受賞式進</p>

行・受賞者の演台誘導の役割を請け負う。今年 2241 件の応募の中から栄えある各賞の受賞者たちです。今年も善政競争がスタートしました。

**大賞 ◆グランプリ 愛知県 犬山市議会**

**【最優秀賞】 ■最優秀マニフェスト推進賞<首長部門>小林常良**  
**(神奈川県 厚木市長 ■最優秀マニフェスト推進賞<議会部門**  
**> 林晴信 (兵庫県西脇市議会議長) ■最優秀マニフェスト推進賞**  
**<市民部門> 信濃毎日新聞×6 高校 (長野県) <議会部門> 愛知県**  
**犬山市議会 ■最優秀政策提言賞 川西市議会会派「明日のかわに**  
**し」 ■最優秀コミュニケーション戦略賞 TeamSendai(宮城県**  
**仙台市) ■最優秀シティズンシップ推進賞 NPO 法人 SET (東京**  
**都) «審査委員会特別賞» ■成果賞 特別賞 長野県 喬木村議会**  
**■マニフェスト推進賞<議会部門> 特別賞 自由民主党横浜市支**  
**部連合会、自由民主党横浜市会議員団 «特別審査委員による特**  
**別賞» ■特別賞<箭内道彦選> 埼玉県 寄居町議会 ■特別賞**  
**<秋吉久美子選> 久米島ドリ一部チャレンジ ■特別賞<原田謙**  
**介選> 群馬県 桐生市議会**

**『講評・意見交換会』**

**小林常良 (神奈川県厚木市長)**

第 6 回優秀賞、第 9 回特別賞を授賞している。3 つのマニフェストの柱「企業誘致・地域経済活性化・日本一を目指した子育て・

教育環境・徹底した行政改革」が、目に見えて成果を出している。マニフェスト実現に向けた仕組みを政策の中に入れていた事が評価された。

### **林晴信（兵庫県西脇市議会議長 ）**

議長選挙にマニフェストを掲げて立候補。議会だけでなく広く市民に開かれた議長選挙をてんかいた。信濃毎日新聞×6 高校地方新聞が知事選挙で、マニフェストを比較する記事を作成し、教育機関と連携し新聞記事を活用した主権者教育を展開した。政治を遠ざけてきた教育から生の政治を扱う教育へ転換した。川西市議会会派 行政の予算編成プロセスに対する政策提言として、ルールを作り、会派予算提言をした。Team Sendai 公的な自治体の記録ではなく、職員が自らの体験を発信。大学との連携や市の事業にも発展。職員の自主勉強会の成果。NPO 法人 SET 震災以来 38 回開催の大学生による、まちづくりの企画を実行・報告するプログラムを実施。陸前高田市と関東エリアの大学生を繋いだ。喬木村議会 夜間休日議会開会委員会の開催。開催方法等開かれた議会を目指し議会改革をしている。自由民主党横浜支

### **部連合会、自由民主党横浜市議会議員団**

議員によるマニフェスト進捗をモニタリング検証大会を開催。第9回ではグランプリを受賞。8本の条例マニフェスト、2015年は、24の政索マニフェスト作成。マニフェストの使いこなしが目立つ。犬山市議会 住民と歩む議会の充実、議員間討議を踏まえた監視、政策提言能力を高めたと評価された。議会報告、出前講座などを進めて議会改革が進んだ。参加すれば、実現できるという意識が住民に広がった。と絶賛され、グランプリ受賞。

やはり参考になる議会の実践がたくさんあった。議会改革の進み具合は、どれだけやる気があるかの本気度によると感じる。開かれた議会は何処の議会でも掲げているテーマであるのは分かっている事だが、具体的にどう実践しているかだ。住民との犬山市議会の議場を使っただけの提言集会は、規模の違いでは解決できないことなので、わが市の、パブリックコメントでの市民意見聴取には工夫が必要だと感じた。議員発の条例は今年もわが市でも提案されるが、本数が半端でない横浜市。こちらは、議員数が多いと言い訳が出てきそうだが、それぞれのテーマを調査研修し提言へ繋げるそして条例へと進めていく意欲が横浜市議会の自民党議員団からは伝わってくるものがあった。変えていこうと議員団を引っ張っている中堅どころの動きが鍵だと思う。議員として、やるべきことが見えてきているが、数で、叶わないのは残念だ。主権者教育は我市議会も力を入れている。このような場面に、この事例を応募し全国発信してほしい。市内の高校へ出向き、これだけの数をこなしているのは、かなり評価が高いと思う。マニフェストに掲げている首長は、それぞれの市の特徴もあるが、子育て、教育環境の充実、産業振興、行財政改革など共通している。何処も人口減少の中、わが市の生き残りをかけて、政策を打ち出している。「世界に輝く静岡」まずは、日本でどう輝いているかが大事なのではないかと感じる。犬山市のビヤンキ議長の決断力が議会を引っ張っていると感じる。この議長に就任するのにも立候補している。喬木村議会では議長マニフェストを作り立候補し選任されている。まさに、これが必要だと思う。我が市も、所信表明の機会もない儘、正副議長を選任していた頃からすれば進化しているとは言えるが、先には先がある。前例踏襲や慣習を変えていく挑戦が必要なのではないかと感じているのだが、声にするには、かなりの勇気が必要だ。7年半たった今も、被災地支援している若者がいることに敬服する。関東の学生と陸前高田市を結ぶNPO活動。日本に育ちつつあるボランティア精神を、行政もしっかりと支えてほしいものだ。また仙台市のように市職員の自主的な勉強会は、当事者意識を醸成している。我が市でも、職員を支援員として派遣し、現場経験を積んでいる。それらの人達が、戻り、報告会を開催し、意識の共有をしているのは素晴らしいと思う。市長も何度か応募し優秀賞を受賞している。来年は、選挙の年、マニフェストを作成し、再応募し最優秀首長賞・グランプリを目指してほしいものだ。